

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200420		
法人名	医療法人 誠和会		
事業所名	グループホーム コージー ユニット共有		
所在地	岡山県倉敷市中島848-6		
自己評価作成日	令和 3年8月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhou_detail_022_kan=true&ligvosyoCd=3390200420-00&ServiceCd=320&Tyne=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活の中で、洗濯たたみや食後の片付けなどの家事活動を職員と共にしながら、施設内生活の中で役割を持ち家庭的な雰囲気のもとでゆとりとした生活を送る。入居者1人1人の思いや希望、要望を大切に可能な限り生活の中での活動を取り入れた個別ケアに取り組んでいる。また、コロナウイルス感染予防に配慮し、ユニット単位での小規模の季節に合わせた行事を計画し楽しんでいただいている。家族の来訪時には、日々の生活の様子や毎月の状態を細目に報告することで、信頼関係を築き、今後の高齢化、重度化が進んでいく中で、家族と共に入居者の生活を支えられるように心がけ、医師や看護師等他職種と、入居者の日々の状態観察で獲た情報を共有しつつ医療との連携も出来るように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回訪問してから3年過ぎたこの秋、久しぶりにGHコージーを訪ねると、以前の女性施設長に代わり、令和元年10月から男性施設長が就任していた。このホームの長所を尋ねると、入居者と職員との距離が近い、利用者一人ひとりのペースを大切に対応しており、家族のような関係と、答えが返ってきた。理念としている暮らしやすい、第二の我が家に限りなく近い生活が実現出来ているのをこの言葉からも感じた。医療法人誠和会が目指しているのは医療と介護のトータルサポートであり、このGHコージーはその法人敷地内の一角にある。医療と介護の連携がしっかり構築されていて、安心して生活出来るのも最大の魅力の一つだろう。法人として今後は地域活動に力を入れる方針と聞いているので、益々これからのGHコージーの活動にも期待が持てる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誠和会の理念、コージューの目標を心がけ、家族と協力しながら、暮らしやすい、第二の我が家と思ってもらえるように取り組んでいる。	法人理念の他、グループホーム目標「家庭的な雰囲気の中で楽しみ安心感のある生活の提供」等3項目を事務所に掲示している。理念は入社時の研修の他、個々のネームタグに入れいつでも確認出来るようにしており、常に意識しながらケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の川掃除に職員が参加している。コロナウイルス感染予防のため地域活動や規模の大きい行事の参加や地域ボランティア誘致が出来ていない	例年参加している川掃除もなく、地域とのつながりがコロナ禍の為に制限されているが、いつでも連絡を取り合えるようにしている。倉敷中央高校の実習生の訪問がある等、地域との交流もある。法人として今後は地域活動に力を入れる方針との事である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染防止に努めつつ、高校や専門学校の実習を受け入れ、同法人が受け入れた実習生に見学や説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を行い、家族や地域、他事業所の方からの意見を持ち帰り、管理者から他職員へ報告、チーム会などで検討し日々のサービス向上に努めている。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議が開催出来ており、地域包括、誠和会(GH・居宅・在宅支援・小規模等)等の参加メンバーで話し合い、活動報告やヒヤリハット報告等をしている。また、コロナウイルス対策についても検討し合っている。尚、議事録は家族に送付している。	今はコロナ禍であり、地域の人、家族等の参加は難しいが、今後は運営推進会議活用ツールを使用して自己評価をする方向性を考えると、地域・家族等の参加は不可欠となるので今から対策を考えていきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて地域包括支援センターや同法人内での他事業所から参加があり、活動報告をしている。必要時、相談し協力を得ている。コロナウイルス禍もあり、外部からの出席は遠慮差せていただいている。	運営推進会議に担当者の参加があり、ホームの現状は理解してもらっており、何かあれば相談し、助言や指導をいただいている。コロナ禍もあり、介護保険関係の書類は電子申請をしており、電話でのやり取りが多いが、しっかり連携は取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制・虐待委員会で、マニュアルやケア方法の見直しをしている。アンケートを実施し勉強会を開催する事でケア方法の見直しを行っている。また、居室環境についても随時見直しを行っている。	身体拘束・虐待防止・高齢者虐待・スピーチロック等、年3回勉強会を実施して職員間で意識の統一をしている事が記録からも確認出来る。外に出たい人には声かけをしながら付き添い、散歩したり、ウッドデッキで花の水やりをして気分転換してもらおう等、その人に合わせて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	抑制・虐待委員会が勉強会を開催し、職員に周知徹底している。また、内部外部の研修会に参加し知識の向上に努めている。アンケートを実施しており、ケアについて振り返る機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者2名。勉強の機会が少ないため、研修へ参加する機会を設けることや包括支援センターなどへ問い合わせをし対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、契約書、重要事項説明書で説明を行っている。また、契約書・重要事項の変更や入居後意見などがあれば、説明を行い理解を得たうえで承認を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で得た意見を、日々の活動に取り入れるように心がけている。家族の来訪時には、近況報告をしている。毎月、生活の様子便りを送付し、心身の状況をアセスメントし家族に報告して意見交換を行っている。	面会時や電話等で家族と話し合い、積極的に意見や要望を聞いている。利用者の担当制があり、家族への状況報告は毎月のお便り等で担当者が行い家族に好評と聞いた。また、写真満載の新聞を発行して出来る限りホームでの行事や生活の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と意見交換を行うため、月に1回チームミーティングを開いている。ミーティングに参加出来ない職員に関しては、事前に意見を聞くようにしている。随時、ミーティングを開催し意見や提案を取り入れられるようにしている。	チームリーダーを中心に月1回各ユニットでチーム会を実施し、意見交換をしている。職員から食事形態の出し方や介護方法についての提案があり改善した例もある。運営についての意見や提案も幅広く話し合い、職員間のコミュニケーションもよく取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の面談や随時個別面談を行い、職員の目標や現状について話をする機会を設けている。また、勤務時間や希望休等出来る限り要望を聞き、勤務調整を行い働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には、担当の職員がつき教育を行い、安心して働けるように環境を整えている。また、法人内外の研修に参加し知識を深められるよう取り組んでいる。法人内でも発表や勉強会を開催し、技術知識の研鑽の機会を設け、職員一人一人のケア技術の向上に努めている。外部研修に参加し 参考になった内容は、ホーム内の勉強会を開催し知識をホーム内へ取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインを使っての内・外部の研修に参加し、他施設と情報交換を行っていけるように努めている。良い意見は、資料や委員会で報告し現場で生かせるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段より、密にコミュニケーションを図り、本人が心配や不安に感じていることに対応する事で不安の軽減に努めている。1対1で寄り添ったケアを行う事で信頼をえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族の要望や思いを聞き、入居後は随時現状報告を行うことで家族の気持ちに寄り添える機会を作り、安心して過ごせるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人や家族から困っていることを聞き、サービスを受けている事業所から情報を得て状況を確認し、職員間で話し合い検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の片付けや洗濯たたみ、縫い物、畑での野菜作り等を職員と一緒にし、共に支え合いながら生活を送っている。高齢化・重度化が進む中で、入居者の尊厳を大切に出来るようケアを行い、穏やかな雰囲気の中で楽しみ、安心感のある生活を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時には、必ず生活の様子を報告して意向確認を行なっている。入居者との面会においてはコロナウイルス感染予防を念頭に直接の面会は控えつつ、ゆっくり過ごせるように環境を作っている。また、月に1回行事を行っており、家族に報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方と外食や御法要にも参加できるように連絡、調整を行い、知人の来荘時には、面会できるよう調整していたが、現在コロナウイルス禍のため実施できていない。	コロナ禍の為、通常の面会が難しい中、出来る限り馴染みの人との関係を継続出来るように努めている。今日訪問中にも家族の面会の場面に出会った。利用者とはすっかり顔馴染みの散髪の訪問、利用者と職員、利用者同士も馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日体操や歌を唄ったり、レクリエーションなどを実施し、活動を通じて他者と交流を図る時間を設けており、コミュニケーションが図りにくい方には、職員が間に入るなど対応をしている。居室で過ごすことの多い入居者の方へは、細目にコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した方のご家族に、運営推進会議や行事に参加していただき意見交換を行っている。また、連携を取りながら必要に応じ、情報収集、情報交換をしている。法人内の施設へ退去した方の所へ面会を行い関係性を保つように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から入居者の思いや希望をくみ取り、実現できるよう取り組んでいる。思いを伝えることが難しい方には、個別に話をしたり家族にどのようなことを好まれていたか確認をしている。	ある利用者は、これまで家では髪を染めていたのにホーム入所後出来なくなっていたが、その思いを知った元美容師の職員がコロナ禍でもあり、家族の了解を得てホームで髪を染めてあげたところ、とても喜ばれたようだ。心身の情報シートの記録を見ても、一人ひとりの思いや希望をしっかりと把握している。	心身の情報シートには一人ひとりの利用者の写真と6項目の聞き取った情報が記録されているが、意向や希望をケアプランにつなぎきれていないと感じる。情報は更新し、日々の生活の中で実現させてあげて欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族へフェイスシートに生活歴を記入してもらい、入居前の様子を把握している。また、入居後も入居者及び家族との会話の中から情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子や状態に変化があれば、カルテや月1回のモニタリングシートに記載し総合的に把握できるようにしている。また、申し送りやチーム会で一人一人の様子を話し合い情報の共有し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見を反映させつつカンファレンスを行い本人の希望や状態を把握し、医師や看護師、リハビリと情報交換を行いケアプラン作成している。	N式老年者用精神状態尺度(NMスケール)を活用し、本人・家族からの意向やアセスメントを基に職員間で話し合いケアプランを作成している。日々の生活記録にケアプランの評価を記入する事で常に意識しながら職員間で共有・実践している。	リハビリ実施記録があり、個別リハビリに力を入れているが、プランのニーズには身体面(特にリハビリ重視)の傾向が強く、ここでどのように過ごしたいか、何をしたいか等の精神面・心理面の記述が少ない。もう少し心のケアにも目を向けて欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録やモニタリングシート、毎月の様子に評価を記入しカンファレンスにて検討している。また、プランの評価、新しい介護計画で来た時には、スタッフ全員が確認し把握に努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、本人や家族の要望を確認し、一人一人の状態に応じたケアをおこなっている。法人内の他職種と連携を図り、その方に合った支援ができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防の観点から、外部の方との接触無いよう安全心掛けつつ、ユニット単位・個人単位など小人数での敷地内の散歩など外出して気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態観察を行い、協力医療機関やかかりつけ医、訪問診療や訪問看護など連携を密にし、適切な医療が提供出来るよう努めている。状況の変化があれば随時報告している。	一人を除き、利用者は皆、法人の母体病院をかかりつけ医としており、半数は外来受診、半数は訪問診療を利用している。口腔ケア・義歯調整等従来からの訪問歯科を利用している人もいる。また、訪問看護の一環として法人の訪問リハにアドバイスをもらっているため、医療と介護の連携がしっかり出来ていて心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定や本人の表情を観察する事で、異常の早期発見に努めている。異常時には、訪問看護に報告や相談し指示のもと対応している。週1回の訪問日には看護記録にて情報交換し、職員全員が状態の把握が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は随時面会に行き、本人が安心して治療を受けられるように支援している。早期退院できるように医療関係者と情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な管理が必要となった場合、家族・医師と相談し状態に応じた施設サービスが受けられるように援助している。入居相談時や入居後も随時、家族に医療の意向説明、確認を行っている。本人と家族の方からの希望を聞き看取りを行っている。	近年では102才の方を老衰で見送った。家族に見守られての人生の終焉であり、コロナ禍にあったが、万全の感染対策を施し最期の時を家族と過ごせた。今はターミナル期の人はいないが、主治医が家族から終末期の希望を聞く等、随時意向確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、マニュアルをもとに勉強会開催しデモンストレーションを実施している。その都度、内容を見直し確認をしている。法人の勉強会にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練実施し、法人内の各施設より駆けつけ訓練を行い、火災時など協力体制がとれている。また、他部署から評価してもらい意見を参考にしている。災害時のマニュアルがあり周知徹底している。また、水害時には隣接している特養と協力し避難を行う。	定期的に日中・夜間を想定した避難訓練をしており、消防設備の点検もしている。隣接する小規模多機能ホームと合同避難訓練を行い、水害時はすぐ傍の特養に避難する事になっており、日頃から法人内の協力体制や事業所間の連携もよく取られている。	避難経路、利用者の身体状況等、把握してもらい良い機会と思うので、今後は避難訓練時に消防署の立ち会いも検討してみたい。同法人内での協力体制は出来ているが、地域の人との協力体制も構築して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的にケア方法の見直しや、勉強会・抑 制廃止虐待防止委員会などでも話し合いケ ア方法を見直している。また、その都度チ ーム会でも見直しを行い周知徹底を図って いる。	職員間でスピーチロックについても話し合い、言葉 遣いや利用者への声かけには特に配慮し一人ひ とりを尊重するようにし、標語を作成して目に付く ところに貼って指針にしている。また、羞恥心に配 慮して入浴時には同性介助している例もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から本人の思いや希望が ないか注意しながらコミュニケーションを 図っていき、上手く思いが伝えられない方 には、個別に会話をする機会を設け、伝え やすい雰囲気を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールは決めているが、本 人の意思を大切に、入眠、起床、食事、入 浴時間等、それぞれ本人のペースや体調に 合わせ希望や要望に沿うような対応をして いる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	定期的に訪問美容師に来てもらい、カット実 施している。同じ美容師が来てくれるため、 顔なじみとなっている。身だしなみを整える 事が難しい方には、本人の意見を聞きなが ら介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	食器洗いやランチョマット、タッパー拭き等の 家事活動を入居者と一緒に行っている。毎 月、旬の食材を使った行事食や近隣の飲食 店へ外食に行けるよう計画している。	法人の有料老人施設の厨房から個々の食事形態 に合わせ毎日食事が届くが、朝食はホーム内で 職員が作っている。毎月行事食のメニューがあり 特にお寿司は人気が高い。ちらし寿司やデザート 作り等、楽しくお手伝いしている様子が写真や記 録からも確認出来た。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	管理栄養士がバランスの良い食事のメニューを 作っている。食事、水分量をチェックし把握して いる。水分が少ない時には、こまめに声かけ、 ジュースにて水分提供している。食事量が少ない 時は、本人が好きな物や必要に応じて高カロリー の栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後、残渣物や磨き残しが無いよう口腔内を 確認、介助を行っている。義歯はブラッシング後 洗浄剤を使い、随時清潔が保てるようにしてい る。口腔内にトラブルや受診の希望がある入居 者には、受診や往診を行っている。往診時には、 その方にあった口腔ケアについて相談、指導をう けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排尿パターンを把握しパットや誘導時間の工夫をし、失禁が少なくなるように取り組んでいる。入居者の排尿量を把握し状態に応じてパットの変更を行っている。	両ユニットとも布パンツ使用の人が多く、ボクサーパンツにロングパットで過ごしている割合が実際に多い。おしめ代の家族負担軽減も考えての事であり、要介護5の方も布パンツと聞いた。トイレでの排泄を基本とし、小まめな声かけ・誘導で自立支援を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量等の管理、散歩や体操などの活動を取り入れスムーズな排便を目指している。入居者によってはヤクルトやヨーグルトなどの乳製品を活用したり、腹部マッサージやホットパックを行い、下剤をなるべく使わない自然な排便が出来るように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴槽をまたぐことが難しい方にはリフト浴を使用し、本人の希望と病状に合わせながら入浴を検討している。入浴拒否がみられる方へは、毎日入浴の声かけを行い、その方のペースに合わせている。	週2日午後入浴を基本とし、湯船に入る人、シャワー浴、足浴、清拭等、その人の状態やその日の状況により柔軟に対応している。入浴拒否の激しい人もいるが常時声かけをしながら清潔保持に心がけている。リフトの設置はあるが、リフト浴対応の人は今はいないとの事である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由にウッドデッキに出て過ごしたり、ソファーにてゆっくり過ごせるようにしている。昼寝をしたい人は、居室やソファーで休む時間を設けている。夜寝れない方へは、リビングで話をしたり、温かいお茶を提供している。室内温度、湿度にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬が無いように、毎回職員2人でダブルチェックを行っている。くすりの効能、副作用が速やかに確認出来るように、カルテに挟んでいる。また、法人内で行われる薬の勉強会に参加している。薬剤師から飲み合わせの指導も受け、注意しながら介助を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自分で作成された作品を掲示やまとめることで達成感や喜びを感じている。また、毎月の行事などでお菓子作りや食事をつくり、みんなで食べることで気分転換を図っている。洗濯ものを畳んだり、食器拭きなどの作業が可能の方は日常の作業役割として安全に配慮し提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本来は、希望を聞き、お花見や紅葉ドライブ、食事など行事に取り入れて行こうが、コロナ禍のなか外出は控えている。施設内の畑やウッドデッキの花壇などの手入れや施設の周りの花見や散歩などで戸外へ促すようにしている。	コロナ禍の為、以前のような外出支援は難しいが、その代わりにリビング内に花を飾るなどして季節を感じてもらい、天気の良い時はウッドデッキに出て椅子を並べ外気浴や日光浴をしている。また、法人病院への外来通院も良い気分転換になっている。今年の春は近くの桜を散歩がてら楽しむことが出来た。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる方は、自己管理をされており、定期的に確認を行なっているが、ほとんどの方が自己管理が難しく立て替え金で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望時には、家族や知人に電話をかけている。自ら手紙を書くことは難しく、「毎月のお便り」を職員が作成し家族へ送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候をみながら、空調管理、温度調節を行い、過ごしやすいよう環境作りを心がけている。 花や植物の世話を通じて、草木に触れる事で季節を感じてもらえるようにしている。	リビングは開放的で広く、掃き出し窓からウッドデッキに出られ、隣のユニットとも自由に行き来が出来る。周囲には菜園や花壇があり、水遣り、花・野菜の苗植え、収穫等その人に見合った役割もある。テーブルやソファが適度な間隔で配置され、気の合う者同士お喋りしたり、音楽療法や体操等の余暇活動を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士で会話や活動が楽しめるよう、椅子やテーブル、ソファの配置を検討し音楽を流すなど、随時環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の使用や、昔作った作品を飾ることで、その時代の話や職員の話を職員へ教えてくれる。花の世話が好きな方は、植物を居室に置き世話をしている。世話が難しい方は、職員と一緒に活動で作った作品を飾ったり、家族の写真を飾っている。	思い思いに自室をレイアウトして思い出の品を飾ったり、その人の心身の状態に合わせ、夜間のトイレ移動の際の動線を考慮してベッドや家具の配置を工夫してある居室や物を置かないシンプルな居室もある等、それぞれが快適に、安全に過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーであり活動のスペースを十分に設け、移動しやすいよう、家具の配置に配慮している。居室では、自立してその人らしい生活が送れるよう、本人、家族の要望を聞いたり、転倒の可能性が高い方には、センサーを設置し住環境を整えることで転倒予防に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200420		
法人名	医療法人 誠和会		
事業所名	グループホーム コージー ユニット共有		
所在地	岡山県倉敷市中島848-6		
自己評価作成日	令和 3年8月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&ligvosyoCd=3390200420-00&ServiceCd=320&Tyne=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活の中で、洗濯たたみや食後の片付けなどの家事活動を職員と共にしながら、施設内生活の中で役割を持ち家庭的な雰囲気のもとでゆとりとした生活を送る。入居者1人1人の思いや希望、要望を大切に可能な限り生活の中での活動を取り入れた個別ケアに取り組んでいる。また、コロナウイルス感染予防に配慮し、ユニット単位での小規模の季節に合わせた行事を計画し楽しんでいただいている。家族の来訪時には、日々の生活の様子や毎月の状態を細目に報告することで、信頼関係を築き、今後の高齢化、重度化が進んでいく中で、家族と共に入居者の生活を支えられるように心がけ、医師や看護師等他職種と、入居者の日々の状態観察で獲た情報を共有しつつ医療との連携も出来るように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誠和会の理念、コージーの目標を心がけ、家族と協力しながら、暮らしやすい、第二の我が家と思ってもらえるように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の川掃除に職員が参加している。コロナウイルス感染予防のため地域活動や規模の大きい行事の参加や地域ボランティア誘致が出来ていない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染防止に努めつつ、高校や専門学校の学生の実習を受け入れ、同法人が受け入れた実習生に見学や説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を行い、家族や地域、他事業所の方からの意見を持ち帰り、管理者から他職員へ報告、チーム会などで検討し日々のサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて地域包括支援センターや同法人内での他事業所から参加があり、活動報告をしている。必要時、相談し協力を得ている。コロナウイルス禍もあり、外部からの出席は遠慮差せていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制・虐待委員会で、マニュアルやケア方法の見直しをしている。アンケートを実施し勉強会を開催する事でケア方法の見直しを行っている。また、居室環境についても随時見直しを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	抑制・虐待委員会が勉強会を開催し、職員に周知徹底している。また、内部外部の研修会に参加し知識の向上に努めている。アンケートを実施しており、ケアについて振り返る機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者2名。勉強の機会が少ないため、研修へ参加する機会を設けることや包括支援センターなどへ問い合わせをに対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、契約書、重要事項説明書で説明を行っている。また、契約書・重要事項の変更や入居後意見などがあれば、説明を行い理解を得たうえで承認を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で得た意見を、日々の活動に取り入れるように心がけている。家族の来訪時には、近況報告をしている。毎月、生活の様子便りを送付し、心身の状況をアセスメントし家族に報告して意見交換を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と意見交換を行うため、月に1回チームミーティングを開いている。ミーティングに参加出来ない職員に関しては、事前に意見を聞くようにしている。随時、ミーティングを開催し意見や提案を取り入れられるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の面談や随時個別面談を行い、職員の目標や現状について話をする機会を設けている。また、勤務時間や希望休等出来る限り要望を聞き、勤務調整を行い働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には、担当の職員がつき教育を行い、安心して働けるように環境を整えている。また、法人内外の研修に参加し知識を深められるように取り組んでいる。法人内でも発表や勉強会を開催し、技術知識の研鑽の機会を設け、職員一人一人のケア技術の向上に努めている。外部研修に参加し 参考になった内容は、ホーム内の勉強会を開催し知識をホーム内へ取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインを使つての内・外部の研修に参加し、他施設と情報交換を行っていけるように努めている。良い意見は、資料や委員会で報告し現場で生かせるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段より、密にコミュニケーションを図り、本人が心配や不安に感じていることに対応する事で不安の軽減に努めている。1対1で寄り添ったケアを行う事で信頼をえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族の要望や思いを聞き、入居後は随時現状報告を行うことで家族の気持ちに寄り添える機会を作り、安心して過ごせるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人や家族から困っていることを聞き、サービスを受けている事業所から情報を得て状況を確認し、職員間で話し合い検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の片付けや洗濯たたみ、縫い物、畑での野菜作り等を職員と一緒にし、共に支え合いながら生活を送っている。高齢化・重度化が進む中で、入居者の尊厳を大切に出来るようケアを行い、穏やかな雰囲気の中で楽しみ、安心感のある生活を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時には、必ず生活の様子を報告して意向確認を行なっている。入居者との面会においてはコロナウイルス感染予防を念頭に直接の面会は控えつつ、ゆっくり過ごせるように環境を作っている。また、月に1回行事を行っており、家族に報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方と外食や御法要にも参加できるように連絡、調整を行い、知人の来荘時には、面会できるよう調整していたが、現在コロナウイルス禍のため実施できていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日体操や歌を唄ったり、レクリエーションなどを実施し、活動を通じて他者と交流を図る時間を設けており、コミュニケーションが図りにくい方には、職員が間に入るなど対応をしている。居室で過ごすことの多い入居者の方へは、細目にコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した方のご家族に、運営推進会議や行事に参加していただき意見交換を行っている。また、連携を取りながら必要に応じ、情報収集、情報交換をしている。法人内の施設へ退去した方の所へ面会を行い関係性を保つように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から入居者の思いや希望をくみ取り、実現できるよう取り組んでいる。思いを伝えることが難しい方には、個別に話をしたり家族にどのようなことを好まれていたか確認をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族へフェイスシートに生活歴を記入してもらい、入居前の様子を把握している。また、入居後も入居者及び家族との会話の中から情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子や状態に変化があれば、カルテや月1回のモニタリングシートに記載し総合的に把握できるようにしている。また、申し送りやチーム会で一人一人の様子を話し合い情報の共有し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見を反映させつつカンファレンスを行い本人の希望や状態を把握し、医師や看護師、リハビリと情報交換を行いケアプラン作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録やモニタリングシート、毎月の様子に評価を記入しカンファレンスにて検討している。また、プランの評価、新しい介護計画できた時には、スタッフ全員が確認し把握に努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、本人や家族の要望を確認し、一人一人の状態に応じたケアをおこなっている。法人内の他職種と連携を図り、その方に合った支援ができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防の観点から、外部の方との接触無いよう安全心掛けつつ、ユニット単位・個人単位など小人数での敷地内の散歩など外出して気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態観察を行い、協力医療機関やかかりつけ医、訪問診察や訪問看護など連携を密にし、適切な医療が提供出来るよう努めている。状況の変化があれば随時報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定や本人の表情を観察する事で、異常の早期発見に努めている。異常時には、訪問看護に報告や相談し指示のもと対応している。週1回の訪問日には看護記録にて情報交換し、職員全員が状態の把握が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は随時面会に行き、本人が安心して治療を受けられるように支援している。早期退院できるように医療関係者と情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な管理が必要となった場合、家族・医師と相談し状態に応じた施設サービスが受けられるように援助している。入居相談時や入居後も随時、家族に医療の意向説明、確認を行っている。本人と家族の方からの希望を聞き看取りを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、マニュアルをもとに勉強会開催しデモンストレーションを実施している。その都度、内容を見直し確認をしている。法人の勉強会にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練実施し、法人内の各施設より駆けつけ訓練を行い、火災時など協力体制がとれている。また、他部署から評価をしてもらい意見を参考にしている。災害時のマニュアルがあり周知徹底している。また、水害時には隣接している特養と協力をし避難を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的にケア方法の見直しや、勉強会・抑制廃止虐待防止委員会などでも話し合いケア方法を見直している。また、その都度チーム会でも見直しを行い周知徹底を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から本人の思いや希望がないか注意しながらコミュニケーションを図っていき、上手く思いが伝えられない方には、個別に会話をする機会を設け、伝えやすい雰囲気を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールは決めているが、本人の意思を大切にし、入眠、起床、食事、入浴時間等、それぞれ本人のペースや体調に合わせ希望や要望に沿うような対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容師に来てもらい、カット実施している。同じ美容師が来てくれるため、顔なじみとなっている。身だしなみを整える事が難しい方には、本人の意見を聞きながら介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いやランチマット、タッパー拭き等の家事活動を入居者と一緒に行っている。毎月、旬の食材を使った行事食や近隣の飲食店へ外食に行けるよう計画している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がバランスの良い食事のメニューを作っている。食事、水分量をチェックし把握している。水分が少ない時には、こまめに声かけ、ジュースにて水分提供している。食事が少ない時は、本人が好きな物や必要に応じて高カロリーの栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、残渣物や磨き残しが無いよう口腔内を確認、介助を行っている。義歯はブラッシング後洗剤を使い、随時清潔が保てるようにしている。口腔内にトラブルや受診の希望がある入居者には、受診や往診を行っている。往診時には、その方にあった口腔ケアについて相談、指導をうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排尿パターンを把握しパットや誘導時間の工夫をし、失禁が少なくなるように取り組んでいる。入居者の排尿量を把握し状態に応じてパットの変更を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量等の管理、散歩や体操などの活動を取り入れスムーズな排便を目指している。入居者によってはヤクルトやヨーグルトなどの乳製品を活用したり、腹部マッサージやホットパックを行い、下剤をなるべく使わない自然な排便が出来るように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽をまたぐことが難しい方にはリフト浴を使用し、本人の希望と病状に合わせてながら入浴を検討している。入浴拒否がみられる方へは、毎日入浴の声かけを行い、その方のペースに合わせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由にウッドデッキに出て過ごしたり、ソファにてゆっくり過ごせるようにしている。昼寝をしたい人は、居室やソファで休む時間を設けている。夜寝れない方へは、リビングで話をしたり、温かいお茶を提供している。室内温度、湿度にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬が無いように、毎回職員2人でダブルチェックを行っている。くすりの効能、副作用が速やかに確認出来るように、カルテに挟んでいる。また、法人内で行われる薬の勉強会に参加している。薬剤師から飲み合わせの指導も受け、注意しながら介助を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自分で作成された作品を掲示やまとめることで達成感や喜びを感じている。また、毎月の行事などでお菓子作りや食事をつくり、みんなで食べることで気分転換を図っている。洗濯ものを畳んだり、食器拭きなどの作業が可能の方は日常の作業役割として安全に配慮し提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本来は、希望を聞き、お花見や紅葉ドライブ、食事など行事に取り入れて行うが、コロナ禍のなか外出は控えている。施設内の畑やウッドデッキの花壇などの手入れや施設の周りの花見や散歩などで戸外へ促すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる方は、自己管理をされており、定期的に確認を行なっているが、ほとんどの方が自己管理が難しく立て替え金で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望時には、家族や知人に電話をかけている。自ら手紙を書くことは難しく、「毎月のお便り」を職員が作成し家族へ送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候をみながら、空調管理、温度調節を行い、過ごしやすいよう環境作りを心がけている。 花や植物の世話を通じて、草木に触れる事で季節を感じてもらえるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士で会話や活動が楽しめるよう、椅子やテーブル、ソファの配置を検討し音楽を流すなど、随時環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の使用や、昔作った作品を飾ることで、その時代の話や職員へ教えてくれる。花の世話が好きな方は、植物を居室に置き世話をしている。世話が難しい方は、職員と一緒にしている。活動で作った作品を飾ったり、家族の写真を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーであり活動のスペースを十分に設け、移動しやすいよう、家具の配置に配慮している。居室では、自立してその人らしい生活が送れるよう、本人、家族の要望を聞いたり、転倒の可能性が高い方には、センサーを設置し住環境を整えることで転倒予防に努めている。		